

English follows Japanese

私たちが信じている事：仲保者キリスト ヨハネ 1:14-18

B.B.ウォーフィールド（ベンジャミン・ブレッキンレッジ・ウォーフィールド）は、プリンストン神学校が自由主義的な神学によって、現在は米国長老派教会と呼ばれている北部長老教会と分裂する以前の、偉大なプリンストン神学者の一人でした。現代の神学者たちは、B.B.ウォーフィールドが聖書の靈感と無誤性を強力に弁護したことを特に評価しますが、彼が教えの中で最も大切にすることは福音中心であることでした。ジョン・パイパーやティム・ケラーなど現代の福音中心主義の牧師や神学者が福音を重要視するようになったずっと前に、B.B.ウォーフィールドはキリスト教とは贖罪を意味し、贖罪こそがキリスト教の存在理由であると指摘していました。キリスト教の中心は、もちろんキリストであり、このキリストこそがあらゆる偽りのキリスト教やカルト集団が主に攻撃する点です。今日のテーマであるイエス・キリストについての聖書的理解を擁護するために、B.B.ウォーフィールドは情熱を注ぎ、精力的に執筆しました。彼はイエスがどのような方であるかの根本にある、神であると同時に人でもあるという二重の性質について、次のように書きました。「二つの性質という教義は、受肉の教義のもう一つの表現であるに過ぎず、受肉の教義はキリスト教という体系を回す蝶番のようなものだ。これら2つの性質無しに受肉はなく、受肉がなければキリスト教を特徴づけるものもない。」

使徒ヨハネは彼の福音書の中でイエスを紹介する際、福音書のメッセージ全体の鍵となる、キリストに関するこの中心的な真実について単刀直入に語っています。ヨハネによる福音書 1:14-18には次のようにあります。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。15. ヨハネはこの方について証しして、こう叫んだ。「『私の後に来られる方は、私にまさる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。」16. 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。17. 律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。18. いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」祈りましょう。

聖書の中で、神の摂理により歴史が神の目的に沿って動き、展開していくことは全て贖いのためです。神はご自分の民が罪から救われる道を備えて下さいます。その贖いのご計画の全ての側面において中心におられるのは、一人の人物、つまり三位一体の第二の位格であり、子なる神でおられるイエス・キリストです。神の贖いのご計画において、イエスの重要性はいくら強調してもしすぎることはありません。イエスは罪人である私たちと、罪とは無縁な聖なる神との間に平和を仲介される方です。既に数週間前に見たように、私たちの人間としての墮落の度合いは、罪の中に死んだ者であり、創造主である神との関係を持つことなど到底できないほどです。イエスは仲保者として私たちの贖いを可能としてください。今日の聖書箇所では、自分や他の人を罪から救うという、それまで生きてきた誰もが成しえなかったことを、なぜイエスがお出来になったのかについて語られています。ヨハネの福音書 1章ではイエスを「ことば」と呼んでいます。それは神の御言葉として、神ご自身を究極のかたちで啓示されたのがイエスでおられたからです。これは 18 節でも明らかにされていることです。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」ここではなぜイエスが神の究極の啓示であるかが示されています。それはイエスが神でおられるからです。「父のふところにおられるひとり子の神が」というところに注目してください。もちろん父なる神がそこにおられますが、「父のふところにおられるひとり子の神」とあります。既に今回の説教シリーズで三位一体の神について学びましたが、ここで「ことば」として啓示されているのは、三位一体の二番目の位格である神の子、イエス・キリストであることが分かるかと思います。ここで述べられているのが子なる神であることの証拠は、使徒の働き 7 章でも見る事ができます。そこではクリスチャンとして最初の殉教者となったステパノが石打ちの刑に処せられたことが記されていますが、使徒の働き 7:54-55 には「人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノ

に向かって歯ざしりしていた。55. しかし、聖霊に満たされ、じっと天を見つめていたステパノは、神の栄光と神の右に立っておられるイエスを見て」とあります。

ですから、イエス・キリストが私たちの仲保者となりうる第一の理由は、真に神でおられるからです。第二ロンドン信仰告白の19ページ、第8章セクション1には「神はその永遠の目的において、御自身のひとり子主イエスと結ばれた契約に従って、彼を神と人との間の仲保者、預言者、祭司、王、神の教会のかしらまた救い主、万物の世嗣、世界の審判者として選び、任じることをよしとされた。」とあります。イエスが仲保者でおられるからこそ、ここに並べられている全てのものとなることができるのです。私たちには自分自身も他人も救うことはできないので、神ご自身が救ってくださる必要があったのです。そしてそれを成してくださったのが、三位一体の第二位格である子なる神であられ、その役割を唯一果たすことができるお方でした。第二ロンドン信仰告白の21ページ、第8章セクション9には、「神と人との間のこの仲保者の職務は、神の教会の預言者、祭司、また王であるキリストにのみふさわしく、その職務の全体にもせよ、一部にもせよ、彼から他のものに委譲されることはない。」とあります。

他の誰にもできない理由は、それを果たすのが人間でなければならなかったからです。なぜイエスだけが私たちの仲保者であり、救い主となることができるのかを理解する上で、ヨハネの福音書1:14-15が非常に重要となります。14節は「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」と言います。神が肉体を持たれたということです。子なる神は完全に人となられ、お生まれになり、アダム以来の全ての人と同じように生まれ、生き、死なれたのです。けれど、イエス・キリストとその他の全ての人間との間には一つの違いがありました。それが14節の後半で明らかになります。「私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」これまでもローマ人への手紙3:23を何度も引用してきましたが、そこには「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」とあり、全ての人々が置かれている状況が語られています。けれど、イエスは神の栄光を完全に示されました。事実、ヨハネの福音書1:14によれば、イエスを見ることは神の栄光を見ることでありました。それはイエスが神でおられたからです。また処女降誕を通して得られた人間性ゆえ、罪の性質を持たずに生まれた唯一の人間であられました。続けて15節を読むと、バプテスマのヨハネがイエスについて、その神としての存在を認めています。15節には「ヨハネはこの方について証しして、こう叫んだ。「『私の後に来られる方は、私にまさる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。」」とあります。バプテスマのヨハネはイエスよりも先に生まれ、イエスが公に宣教される前に彼の宣教活動を始めました。人間的にはヨハネはイエスよりも先に生まれていますが、実際にはイエスが自分より先におられたと言っています。イエスは誕生の時から存在し始められたものではありません。神としては永遠におられる方です。人間としては罪のないお方です。神が人となられたという真理について、ロンドン信仰告白の19ページ、第8章セクション2には「御子は、時満ちるにおよんで自ら人間の本性、およびそれに伴うすべての本質的特性や共通の弱さをとられたが、罪はなかった。」と書かれています。つまりイエスは神であると同時に人でありました。

今日の説教の前半では、イエスが神であるということを明確にするために時間を割きましたが、理解していただきたいのは、イエスが完全な人間でもあるのだということです。ピリピ人への手紙2:6-8は次のように言っています。「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、7. ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、8. 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」この箇所で言っているのは、イエスがただ人間のように見えるのではなく、完全に人間であったということです。あらゆる点で人間と同じく、苦しみも、痛みも、喜びも、人との関係も、そして死も経験されました。唯一経験されなかったことは罪を犯すことでしたが、それについても誘惑を受けるといえることがどのような事かを知っておられました。ヘブル人への手紙4:15は「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯

しませんでした。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。」と語っています。イエスについての人間性と神性という二つの真理こそが、私たちの仲保者となることができる唯一の方とされるのです。

この神と人の二つの性質の結合を神学的には「位格的結合」と言います。この用語自体はあまり意味がありませんが、ロンドン信仰告白 19 ページの第 8 章セクション 2 では、この意味がしっかりと定義されています。「彼は聖霊により処女マリヤの胎に宿られた。聖霊は彼女に臨み、いと高き方の力が彼女を蔽ったので、聖書に従って彼は女から、ユダ族から、アブラハムとダビデのすえとされた。そこでこの二つの、十分に、完全に、しかも異なっている性質が、変化も合成も混合もなしに、一人格のうちに不可分に結合された。この人格こそ、まことの神、またまことの人で、しかも一人のキリスト、神と人との間の唯一の仲保者である。」

ここまでイエスの二つの性質が一人のメシヤあるいはキリストに統合されることについて、イエスが神と私たちの間の新しい契約を仲介されるという点を中心にお話してきました。このことは言い換えると、イエスの人間性ゆえにイエスは私たちと同じ人として私たちの代わりに十字架の犠牲を負うことができたことを意味します。そしてその神性ゆえに罪を持たれなかったため、その犠牲は神の要求される完ぺきさと神性を備えたものでありました。キリストの犠牲はイエス・キリストを自分の主であり救い主として受け入れる人のものとなります。こうした仲介の形を和解と言います。私たちは子なる神であるイエス・キリストとの関係を通して神と和解します。ローマ人への手紙 5:10 に次のようにあります。「敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです。」神は創造主と敵対する者であった死んだ罪人を、神との平和を持つ者としてくださいました。さらに神と私たちの間で和解をもたらす仲保者としての働きは、救いだけに留まりません。キリストは今も神と私たちの間の仲保者であり続けられます。キリストは神の子たちとされた私たちの代わりに父なる神のもとへ行かれます。イエスは仲保者として、神の民のために預言者、祭司、王と言う三つの役割を果たされます。預言者の役割とは、ヨハネの福音書 1:18 にあるようにイエスが父なる神を明らかにすることです。預言者は神のメッセージを人々に示しますが、イエスは私たちに神を完全に明らかにされます。

ヘブル人への手紙 4 章に戻ると、イエス・キリストが私たちの祭司、まさに大祭司であることが分かります。ヘブル人への手紙 4:14-16 「さて、私たちには、もろもろの天を通られた、神の子イエスという偉大な大祭司がおられるのですから、信仰の告白を堅く保とうではありませんか。15. 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。16. ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」旧約聖書の時代、祭司の役割は人間と神との間を取り持つことでした。偽りの宗教においても、超自然的な世界と物理的な人間の世界を仲介することが祭司の役割です。イスラエルの礼拝において大祭司とは、神が地上に臨在され、契約の箱が置かれた神殿の至聖所に入ることを許された、世界でただ一人の人物でした。大祭司は毎年一度だけ、全ての人の罪のためにいけにえを捧げるために神殿に入ることができました。イエス・キリストは私たちの罪のためにご自身を完全な最後の犠牲として捧げられました。そして人間の大祭司とは異なり、神であるイエス・キリストは、私たちのために父なる神の前に直接何度でも進み出て下されます。人間の祭司が必要ないのはこのためです。私たちはイエス・キリストを通して直接父なる神の前に行くことができるので、もはや祭司に聖書的な役割はありません。大祭司であるイエス・キリストゆえに、私たちは大胆に神に近づくことができるということに注目してください。

最後に、イエスは神と私たちの仲保者として私たちの王としておられます。多くの場合私たちはイエスを王として認識していません。私たちはイエスを救い主として受け入れますが、私たちの

主であり支配者、つまり王として受け入れていません。聖書はキリストに従う者は、キリストに従順であると明確に示しています。キリストを受け入れていながら、自分の好きなように生きるということはありません。ローマ人への手紙 12:1-2 はキリストを受け入れるということは、自分に死に、キリストの似姿に変えられるという人生の変化を意味していると述べています。

「ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。2. この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。」この地上において、キリストは、その権威を自分たちの神であり王であると認め従う者たちの生活の中に、ご自分の王国を築かれます。ですが地上の全ての人がイエスを自分たちの正当な王として認める日が来ます。テモテへの手紙第一 6:14b-15 には「私たちの主イエス・キリストの現れの時まで、あなたは汚れなく、非難されるところなく、命令を守りなさい。15. キリストの現れを、定められた時にもたらしめてくださる、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主」とあります。この世のほとんどの人が自分の主であり救い主として拒絶した、十字架にかけられた方が再び来られます。その再臨が私たちの裁きのためであろうと、報いのためであろうと、全ての人がいつの日かその方を王の王、主の主として認めるのです。この方はあなたの王となることを望まれています。もしあなたがキリストを知っておられるなら、キリストがあなたの王であり、あなたの選択と行動はそのことを反映したものでなくてはなりません。もしあなたがキリストをご存知ないのであれば、キリストは今日、その犠牲によって神と和解し、神の前に義と認められるチャンスを与えてくださいます。そうすれば、愛に満ちた天の父として神を知ることができるようにして下さる、完ぺきな王であり慈悲深い司祭としてのキリストを、あなたも体験することができます。

私たちと神の間に和解をもたらす仲保者としてのキリストの役割も、キリストが私たちの預言者であり、祭司であり、王であることも、全てはキリストの十字架の犠牲に基づいています。今日の説教を終えるにあたり、聖餐式に与ることによってキリストの犠牲を再び思い起こす良い機会となるかと思えます。イエス・キリストを知っておられ、バプテスマを受けておられる方は、共に主の晩餐に与って下さい。大人であれ子どもであれ、まだその準備が出来てらっしゃらない方は、参加をご遠慮下さい。私が祈った後、執事たちが礼拝堂の四隅でパンとジュースをお配りします。キリストの体として、私たちの仲保者であり、私たちのためにご自分を捧げて下さったキリストを覚え、晩餐に与りたいと思えます。祈りましょう。

What We Believe: Christ is our Mediator John 1:14-18

Benjamin Breckinridge Warfield who went by B.B. was the last of the great Princeton theologians before liberal theology changed Princeton Seminary and divided the Northern Presbyterian Church, now known as the Presbyterian Church in the USA. While modern theologians credit B.B. Warfield most heavily with the strongest defenses of the inspiration and inerrancy of Scripture, the great focus of his teaching was on the centrality of the Gospel. Long before modern Gospel-Centered pastor/ theologians like John Piper and Tim Keller made Gospel Centeredness cool, it was B.B. Warfield pointing out that Christianity means redemption and redemption is the very reason for its being. Central to Christianity is of course, Christ, and the person of Christ is the primary focus of attack in every false version of Christianity and cult. B.B. Warfield wrote strongly and passionately in defense of a Biblical understanding of Jesus Christ, which is also our focus today. He made this statement about the dual nature of Jesus being both God and man, which is at the foundation of who Jesus Christ is. He said, *the doctrine of the two natures is only another way of stating the doctrine of the Incarnation; and the doctrine of the Incarnation is the hinge on which the Christian system turns. No Two Natures, no Incarnation; no Incarnation, no Christianity in any distinctive sense.*

The apostle John, in introducing Jesus in his Gospel wastes no time in getting straight to this central truth about Christ that the entire Gospel Message hinges on. **John 1:14-18** says, **14 And the Word became flesh and dwelt among us, and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth. 15 (John bore witness about him, and cried out, “This was he of whom I said, ‘He who comes after me ranks before me, because he was before me.’”)** **16 For from his fullness we have all received, grace upon grace. 17 For the law was given through Moses; grace and truth came through Jesus Christ. 18 No one has ever seen God; the only God, who is at the Father's side, he has made him known.** Let us pray.

Everything that unfolds in Scripture as God in his providence moves history according to his purpose is about redemption. God providing a way to redeem or rescue his people from their sin. The focus of that redemption plan in every aspect of it is centered on one person – the Second Person of the Trinity, Jesus Christ, the Son of God meaning God the Son. The primary importance of Jesus to God's plan of redemption cannot be overstated. He is the one who mediates peace between us as sinners and a Holy God, who can have nothing to do with sin. We have already seen a couple of weeks ago that our fallenness as human beings is so bad that we are dead in our sins and incapable of having a relationship with God our creator. As our mediator, Jesus makes our redemption possible. Our passage today talks about why Jesus does what no other human who has ever lived is capable of doing – rescuing themselves or anyone else for that matter from their sins. John 1 calls him “The Word,” because just as the written Word of God, Jesus is God's ultimate revelation of himself. This is what verse 18 of our passage makes clear. **No one has ever seen God; the only God, who is at the Father's side, he has made him known.** This verse shows us why Jesus is the ultimate revelation of God, because he is God. Notice the separation where it says, **“The only God, who is at the Father's side.”** Of course God the Father is seen there, but then it says, the only God, who is at the Father's side. We already know from our series that God exists as a Trinity, so this must be the second person of the Trinity, God the Son, who is revealed here as the Word and we know is Jesus Christ. We can see other proof of this being God the son in places like Acts 7. Here the first Christian martyr, Stephen, is being

stoned and Acts 7:54-55 says, “Now when they heard these things they were enraged, and they ground their teeth at him. But he, full of the Holy Spirit, gazed into heaven and saw the glory of God, and Jesus standing at the right hand of God. Here is Jesus standing at the Father’s side, just like in John 1.

So the first reason that Jesus Christ can be our mediator is because he is fully God. Chapter 8, Section 1, page 18 of the London Confession says, **In his eternal purpose and according to the covenant made between them, God was pleased to choose and ordain the Lord Jesus, his only begotten son, to be: the mediator between God and humanity, the prophet, priest, and king, head and savior of the church, the heir of all things, and judge of the world.** All those other things listed that Jesus is, are only because he is our mediator. Because none of us could ever save ourselves or others, it had to be God himself who did it. It was the Second person of the Trinity, God the Son that did it, and he was the only one who could possibly fulfill that role. Chapter 8, section 9, page 20 of the London Confession says **Jesus is the only mediator between God and humanity. He is the prophet, priest, and king of the church of God. This office of mediator cannot be transferred from him to anyone else, either in whole or in any part.**

The reason that no one else could do it is because whoever did it had to be human. This is where John 1:14 and 15 becomes so crucial to our understanding of why Jesus is the only one able to be our mediator and savior. **Verse 14 says …the Word became flesh and dwelt among us…** God took on flesh. God the Son became fully human, was born, lived and died in the same way that every human has ever since Adam. But there was one difference in Jesus Christ and every other human who has ever lived, and it becomes clear in the second half of verse 14. **…and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth.** You have heard me quote **Romans 3:23** many times as describing the condition of every human, **“For all have sinned and fall short of the glory of God.”** But Jesus perfectly displayed God’s glory. In fact, to look at Jesus was to see the glory of God according to John 1:14. This is because he was God. And because of his humanity that came through a virgin birth, he is the only human born without a sin nature. As our passage continues, John the Baptist even talks about Jesus in a way that recognizes his Divine existence as God when verse 15 continues, **15 (John bore witness about him, and cried out, “This was he of whom I said, ‘He who comes after me ranks before me, because he was before me.’”)** Now, John the Baptist was born before Jesus…his ministry started before Jesus’ public ministry. In every human way, John came before Jesus, yet he says although Jesus humanly speaking came after him, he (Jesus) was actually before him. Jesus did not begin to exist at his birth. As God he is eternal. As human, he was sinless. In speaking about this truth of God becoming man, **Chapter 8, Section 2, page 18 of the London Confession says, At the proper time, he took on a human nature, along with all of its essential properties and common weaknesses, except sin.** So Jesus is both God and man.

I know that we have spent much of this first part of the message making it clear that Jesus is God, but understand this, he is also completely human. **Philippians 2:6-8 says, Who, though he was in the form of God, did not count equality with God a thing to be grasped, but made himself nothing, taking the form of a servant, being born in the likeness of men. And being found in human form, he humbled himself by becoming obedient to the point of death, even death on a cross.** This passage is not saying that he just looked human, but that he was fully human. He experienced every part of humanity,

the suffering, the pain, the joy, the relationships and the death. The only part that he did not experience was committing sin, but even there he knew what it was like to be tempted. [Hebrews 4:15](#) says, *For we do not have a high priest who is unable to sympathize with our weaknesses, but one who in every respect has been tempted as we are, yet without sin.* These two truths about Jesus Christ, his humanity and his divinity is what makes him the only one able to be our mediator.

We have a theological name for this union of two natures, divine and human, we call the “hypostatic union.” That is actually a term that doesn’t have a lot of real meaning, but the London Confession gives a solid definition of what this means in [chapter 8, section 2, page 18](#) *He was conceived by the Holy Spirit in the womb of the Virgin Mary when the Holy Spirit came down upon her and the power of the Most High overshadowed her. He was born from a woman of the tribe of Judah and was a descendent of Abraham and David, according to the Scriptures. In this way, two whole, perfect, and distinct natures were inseparably joined together in one person. One nature never converts into the other, and the two natures are completely pure and unmixed. This person is fully God and fully human, and at the same time one Christ. He is the only mediator between God and humanity.*

So far, everything we have talked about regarding Jesus’ dual natures uniting into the one Messiah or Christ has been focused on him mediating the new covenant between us and God. In other words, his humanity meant that the sacrifice he made on the cross was able to be made in our place as fellow human beings. And his divine nature as God meant that the sacrifice met God’s requirements of perfection and holiness because he never had any sin. This sacrifice is effective for anyone who accepts Jesus Christ as their Lord and Savior. This form of mediation is called reconciliation. We are reconciled to God through our relationship with God the Son, Jesus Christ. As [Romans 5:10](#) says, *For if while we were enemies we were reconciled to God by the death of his Son, much more, now that we are reconciled, shall we be saved by his life.* God took a dead sinner at war with our creator and made peace between us and God. But that mediation, that function of reconciliation and being the go-between between us and God, does not end with salvation. Christ continues to be the mediator between us and God. He goes to God the Father on behalf of us who have become adopted children of God. In this role as mediator, he performs three roles for the people of God – prophet, priest and king. The prophet role is what we see here in John 1:18 as Jesus reveals God the Father. A prophet would reveal God’s messages to the people, and Jesus reveals perfectly God to humans.

If we go back to Hebrews 4, we see Jesus Christ as our priest, really our High Priest. [Hebrews 4:14-16](#) says, *Since then we have a great high priest who has passed through the heavens, Jesus, the Son of God, let us hold fast our confession. For we do not have a high priest who is unable to sympathize with our weaknesses, but one who in every respect has been tempted as we are, yet without sin. Let us then with confidence draw near to the throne of grace, that we may receive mercy and find grace to help in time of need.* The role of the Old Testament priest was to go between human beings and God. Even in false religions, that is the role of a priest, to mediate between the supernatural world and the physical human world. The High Priest in Israel’s worship was the only person in the entire world allowed to enter the Holy of Holies in the temple where the ark of the covenant stayed and the presence of God existed on earth. He only went in there one time each year to offer one sacrifice for the sins of all the people. Jesus Christ

offered the perfect final sacrifice of himself for our sin. And unlike the human high Priest, as God, he has unlimited access directly with God the Father on our behalf. This is why we don't have human priests. It is no longer a Biblical role, because we go directly to God the father through Jesus Christ. Notice that we approach God with confidence because of Jesus Christ our High Priest.

Finally, Jesus as mediator between us and God serves as our king. Many times we as his own people fail to truly recognize him as king. We accept him as Savior, but not as Lord or ruler, in other words...king! The Bible is clear that those who follow Christ, follow him in obedience. You don't accept Christ and then live your life however you want. [Romans 12:1-2](#) says that accepting Christ means life change, dying to yourself and being transformed into the image of Christ. [I appeal to you therefore, brothers, by the mercies of God, to present your bodies as a living sacrifice, holy and acceptable to God, which is your spiritual worship. 2 Do not be conformed to this world, but be transformed by the renewal of your mind, that by testing you may discern what is the will of God, what is good and acceptable and perfect.](#) At this time on earth, Christ is building his kingdom in the lives of his followers who recognize his authority as their God and king. But there is coming a day in which every person on earth will recognize Jesus as their rightful king. [1 Timothy 6:14b-15](#) says [...until the appearing of our Lord Jesus Christ, which he will display at the proper time – he who is the blessed and only Sovereign, the King of kings and Lord of lords.](#) The one who hung on a cross, who most in this world have rejected as their Lord and Savior is coming again. And whether his coming is to our judgement or our reward, all of us will one day recognize him as King of kings and Lord of lords. He wants to be your king now! If you know Christ, he is your king and your choices and actions should reflect that. If you don't know Christ, then he offers you the chance today to be reconciled and made right with God through his sacrifice. Then you can experience him as your perfect King and Gracious Priest who makes it possible for you to know God as your loving Heavenly Father.

Christ's role as mediator that results in reconciliation between us and God and means that Jesus is our prophet, priest, and king is all based on his sacrifice on the cross. As we end this message today, it is the perfect opportunity once again to remember Christ's sacrifice in communion. If you know Jesus Christ and have been obedient in baptism then I invite you to share this Lord's Supper meal with us. If you are not yet ready whether a child or adult, then please refrain from partaking. After I pray, the Deacons will share the pre-packaged elements from the 4 corners of the sanctuary. We will eat and drink together as a body to remember Christ, our mediator, who gave himself for us. Let's pray.